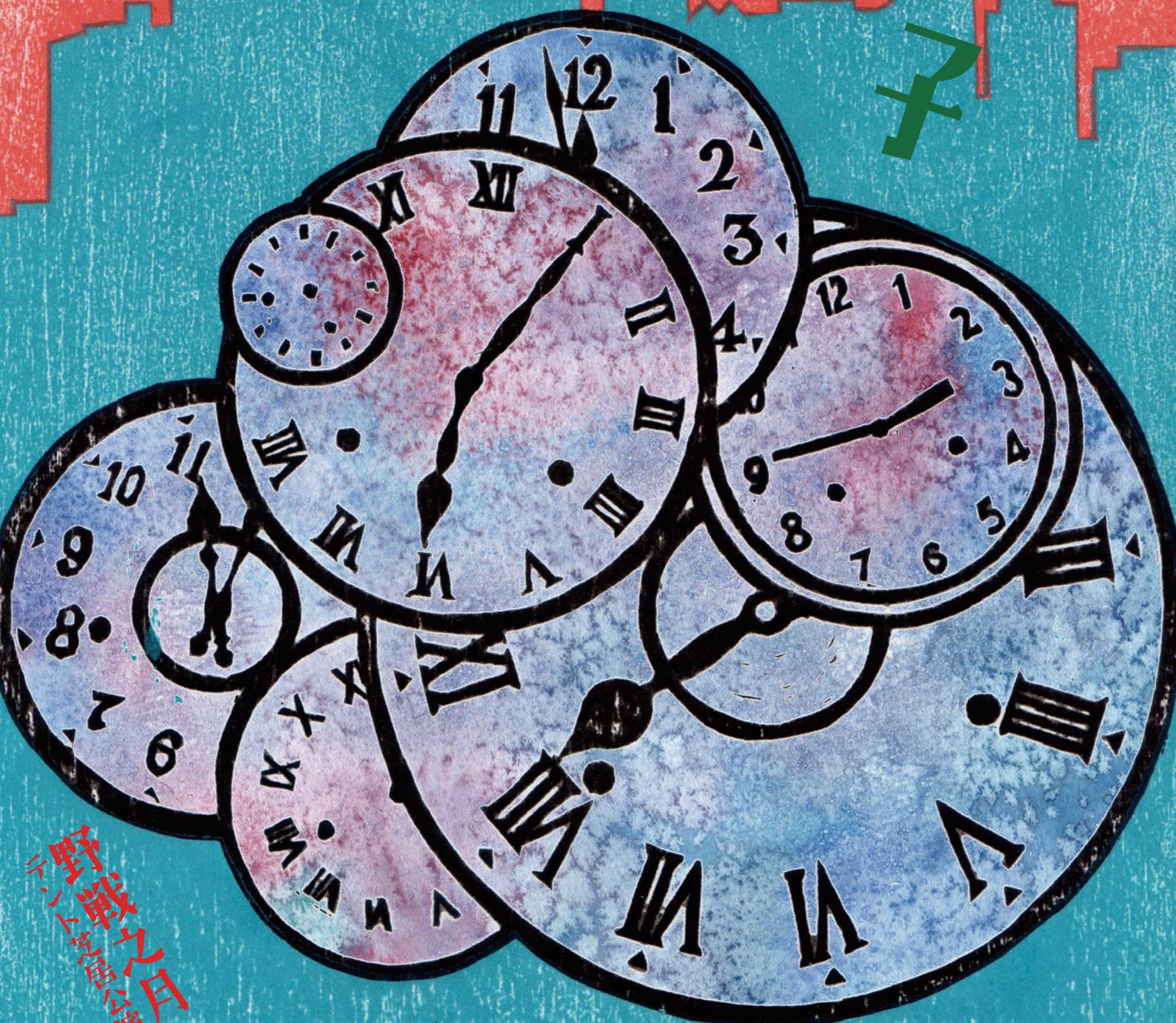


二つ三つのイーハトーブ物語 第二部

木偶ウーボの探

10月 19日(土)~22日(火・休)

国立市富士見台 矢川上公園



野戦曲演
アート

日時：10月19日(土)～22日(火・休) 17時半開場、18時開演(21日のみ、18時半開場、19時開演)

場所：矢川上公園(国立市富士見台) JR 南武線矢川駅より徒歩4分 / JR 中央線国立駅南口よりバス10分
(1番・4番乗り場 矢川駅、国立操車場、国立和泉団地行き「矢川駅」下車 徒歩4分)

〈予約・問合せ〉TEL: 090-8048-4548 E-mail: ticket@yasennotsuki.org

野戦19の秋 野戦之月テント芝居公演

二つ三つのイーハトーブ物語 第二部 木偶ウーボの振り子

2019年10月19日(土)~22日(火・休)

19日(土)・20日(日)18:00開演／21日(月)19:00開演／22日(火)18:00開演

※21日のみ19:00開演 ※開場は開演の30分前

イーハトーブ（理想郷）は、今を生きる私らが未来に投影する幸福社会のことではない。逃れることのできない現実に対する切迫した、全面的な批判意識によって想像・創造される、この現在のもう一つの「場」のことである。だから、イーハトーブを物語るとは、私たちの現実的な危機意識の中にひらめくように想起される過ぎ去った出来事と関わっている。その出来事は多数であり、時制も複数である。しかもそれはすでに燃え尽きた灰のような出来事たちである。その具体的な事実を知るには限りがあり、いわんや再現することは不可能だろう。それにもかかわらず、いや、それ故にこそ、忸怩たる過去の出来事たちは、忸怩たる私たちの生活現実の中に、解放・救済の期待をもつて、一瞬のひらめきのように訪れる。私たちの応答する力能を問うかのように。このような過去の出来事たちの襲来によって私たちの記憶もまた動き始める。これが「クオキイラミ」、逆さまに動く未来への記憶だ。その活動空間として私たちのテント場は用意される。

去年秋のテント場で、私たちのイーハトーブ物語は、「堂々たるデク」というタイトルで上演された。

今秋の「木偶ウーボの振り子」は当然、昨秋どんがらを持つてはいるが、連続というわけではない。真新しい過去の襲来によつて、私の記憶も動いているからだ。

「時間による空間の絶滅」という言葉がある。これは資本社会の経済速度が要求するペクトルである。生産・流通・消費のすべてにおいて、社会空間は選別的に圧縮されており、逆に非選別空間は放置されている。私たちは通常、このような社会空間の中に二様の時間を抱えて生活しているだろう。それは喻えれば、文字盤の二つある振り子時計の、その振り子箱の中の暮らしである。吊るされている锤りが私たちの身体である。振り子の周期は経済速度によって厳しく調整され、ついで文字盤の針を諧調に動かしている。だが、もう一つの文字盤には針がない。私たちの振り子運動はその文字盤ではなにも表現されていない。その文字盤はおそらく電腦空間に設置されていて、锤りである私た以外の表現に満ちている。その空間に、あの忸怩たる過去の出来事は到来しようがないと思われる。なぜならその出来事たちは私たちと一緒に身体を持っているからだ。では、私たちに期待する過去はどうに到来するのか。おそらく、振り子の錘りたる私たにぶら下がる锤りとしてではないか。二重振り子である。二つ目の振り子の揺れは予測できない。正確に右往左往する私たとは真逆のダイナミズムをはらんでいる。

「木偶ウーボ」のウーボとはエスペラント語で「街」の意味である。この想像された「ウーボ」では市民社会の財貨（身体を含めた個人資産）による秩序は絶対的なものではない。なぜなら、なげなしの身体すら財貨として登録できない木偶たちの街だからだ。この「木偶ウーボ」で、過去のダイナミズムと私たちとの交渉、交通関係が、新たな空間を作ることが期待されるのだ。

演員
丸川哲史 桜井大造 小童 大造 一龍 楊 慶鴻 以藏 疫蠅
原田依幸 原田依幸 桜井大造 小童 大造 一龍 楊 慶鴻 以藏 疫蠅
あおやまざくに 2PAC 羅皓名 渡辺薰 風間竜次 Doyoung 中山幸雄 李彥
上岡誠二 韓水 丸川哲史 刘 咲 球磨 雅也 朝比奈 伸也 森 美穂
植田二郎 Jong Min 「呐喊」編集部 水野慶子 野戦の月劇団
野戦之月製作部 押切珠喜 今泉隆子 台湾海筆子 北京流火
清州島カンジョン「クロムビの月」「山谷」制作
上映委員会 明治大学大学院丸川ゼミ 山谷労働者福祉社会館活動委員会 独火星
広島アビエルト プロト舎 伊井嗣晴 武内理恵 山口めぐみ みりん
根岸良一 新井輝久

料金

前売・予約 3000円

当日 3500円

障碍者・大学生 2000円

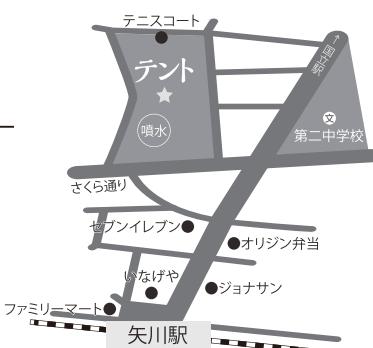
中高生 1500円

小学生以下無料

会場

矢川上公園

国立市富士見台4丁目
(JR南武線矢川駅そば)



作・演出
音楽
舞台監督
照明
音響
舞台美術
衣装
宣伝
翻訳
記録
制作
共同制作
協力

後見

(予約・問い合わせ) TEL:090-8048-4548 E-mail:ticket@yasennotsuki.org

(チケット取り扱い) [模索舎] 東京都新宿区新宿2-4-9 TEL:03-3352-3557

(野戦之月HP) <https://yasennotsuki.org>

